

## 日中経済交流研究会新聞

## 日中経済交流研究会

2024年2月例会

## 中国国境事情についての報告

～グローバル取引で日本を元気に！～

開催日: 2月5日(月) / 参加者: 40名

報告者: (株)津川製作所 代表取締役 津川 礼至



## 津川さんにとっての日中経済交流研究会の意義

日中研究会員の売り上げ倍増5カ年計画で、もっとワクワクしたい！をモットーに2023年は年間57日の海外出張をこなし、海外から元気をもらって帰ってくるパワフル津川社長の報告です。

## 津川製作所 中国での足跡

津川さんは2003年ごろから中国を生産拠点として進出を検討し往来を始めました。2009年ごろから、モーターの巻線を作る際に必要なコイル線のコーティングの試作を現地工場に依頼しました。当時、鉄心に巻線を巻いたものをフェノールフタレイン溶液で現地にてテストしますが、巻いた際に張力をかけることでコーティングが穴だらけになり使い物にならなかったそうです。当時の中国品質の別のエピソードとして、部屋の開錠の際、カギを回すと折れてしまうなどのトラブルも多々あり、品質には苦労を重ねたようです。また、ある時社員がけがをしたので病院に連れていくと「手外科」なる日本では聞きなれない「科」がありました。最初は何の科かわからなかった津川さんですが、いろいろな話を聞くうちにその意味に気づきます。過去の一人っ子政策で戸籍がない人たちは、学校に通えないので字も読めず、格安労働者として働き、プレス機などの説明書・注意書きを読めないまま作業しけがをする。そういった中国の過酷な過去をのぞきみてきたそうです。そんな中国品質や労働環境も今は昔で、今や中国は津川製作所のメイン海外生産拠点になっています。

## 現在の中国事情

IT化が著しい現在の中国では、都市部において現金でモノを買うことはほぼ皆無だそうです。WeChat Payを持たない日本人が中国で買い物をするには、現地の知人と一緒に行動しないと何も買えない。まったくもって中国の進化には驚かされますが、まだまだ現金が流通する日本は2歩も3歩も置いていかれていると感じます。交通事情としては、すでにライドシェアも導入・運用され、どこでもいつでも車がきてくれ種類も選べるとのこと。また、新幹線のチケットは、日本人でもオンライン手配OKとのことでした。

## 中国人気質

皆さんの中国人に対するイメージは、どのようなものでしょう？津川さんから見た中国人気質を一言でいうと「世話焼き」「おせっかい」だそうです。少しイメージと違う方もいらっ

しゃるかもしれませんが、混雑するバスの中で移動できない客のチケット改札を、乗客みんなでパケツリレーしたり、困っている人に声をかけ助け合うようなことが日常だそうです。一般のスーパーで買い物をした時、スーパーの会員ではない津川さんに安くなるので会員になることを勧め、断られると勝手に会員価格で会計するレジの方もいたそうです。私も日本国内で電車の席をサッと譲るのを見かけたことがあります。(一部の日本人は年配の方がいても知らん顔ですが) 時間はかかりませんが一度関係性を築くと、とことんまで深い付き合いになり、恩義を忘れない絆を結べる中国人気質。IT化がすすむことによって、中国人のいいところがクローズアップされ、日本より生活しやすい環境になってきています。

## チャイナプラスワン

津川製作所は、モーター部品手配を主に中国・台湾・ベトナムから調達しています。まずは、中国とベトナムの労働者賃金と工場レンタル賃料を比較すると、ベトナムは圧倒的に安価だそうです。賃金についてはベトナム政府が政策として意図的に抑えている面がありますが、中国は20年間の発展でどんどん上がっているの、モノの手配がなんでも可能な品質の高い中国と安価なベトナム、そしてさらに高品質なものは台湾というように、それぞれグローバルに調達しています。ベトナムと中国は国境線で隣接し、拠点であるベトナムハノイと中国南寧は高速道路で結ばれ、直線距離だと400kmほどで相互の往来は比較的容易です。また、香港・広州・深圳地区とも海路で結ばれています。ただ、まだまだベトナムは不便で住みやすいとはいえない環境です。

## 日本人の嫌中感情

日本では、不動産バブル崩壊など中国経済減速などのネガティブ報道がされていますが、街中の生活環境は安定し現地の肌感覚ではそのような雰囲気は感じられません。今や14億人の人口をかかえる大国中国に対する脅威感情によって、世界中が中国を恐れています。経営者として、報道に振り回されず実態を感じ取る能力が必要ではないかと、津川さんは報告をしめくりました。



文：日中経済交流研究会 広報委員会  
(株)荻田建築事務所 荻田 晃久